

また、博物館学芸員資格取得者には次表の研修旅行を実施した。

日程	研修地	参加人数	引率者
9・23～26	京都／奈良／大阪 平城宮跡、唐招提寺、法隆寺、飛鳥資料館、橿原考古学研究所付属博物館、国立民族学博物館、国立国際美術館等	62名	武田 昭子 安蔵 裕子 久保友嘉里 佐伯 絵奈 藤波 朋子

この他にも、田畑久夫教授が長野県木曽郡南木曽町でのフィールドサーヴェイを、大矢雅彦講師が会津地方のエクスカージョンをそれぞれ二泊三日の行程で実施した。

(5) 秋桜祭参加報告

平成十年度「秋桜祭」(十一月七・八日)に、本学科は考古学研究会(顧問・小泉玲子講師)が中心となって「古代の装い」というテーマで、アングンの復元・展示、および土器づくり、金子台遺跡の速報展を行った。また、「日本服飾史演習」(村井不二子教授担当)では卒業制作として製作してきた二分の一縮寸の西洋婦人服装を展示し、「日本建築史演習」(平井聖教授担当)では御膳の実物展示を通じてその歴史を探究した。

(6) 平成十一年度特殊研究講座

本学では、学問の系統ごとに、学外の著名な講師を招いて講演し

ていただく「特殊研究講座」を開催している。

平成十一年度の文化史系の特殊研究講座は次の通りである。

吉田文雀氏(文楽人形遣い 重要無形文化財保持者(人間国宝))

「文楽鑑賞の手引き―人形の解説と実演―」 5月24日(月)

藪中五百樹氏(興福寺境内管理室長)

「興福寺の美術―阿修羅を中心として―」 6月11日(金)

石川栄吉氏(東京都立大学名誉教授)

「欧米から見た幕末・明治初期の日本」 6月24日(木)

大塚初重氏(明治大学名誉教授・山梨県立考古博物館長)

「考古学から見た邪馬台国」 10月21日(木)

森安彦氏(中央大学教授)

「江戸時代の世田谷女性史(仮題)」 12月6日(月)

光葉博物館だより

平成十年秋には、世界の民族仮面を一堂に展観した、「岩元コレクション 世界の民族仮面展―語りかける造形の妙―」を開催した。展示した仮面は、岩元忠雄・洋子御夫妻が蒐集され、本学の学生の教育と研究に役立てて欲しいと、御寄贈くださったものである。仮面には、人類の「顔」に対する思いが込められている。文化の交流の見られない民族の仮面に、意外な共通点が散見されるなど、顔の表情の普遍的表現について考えさせられる企画であった。

二月には、毎年恒例の生活科学部生活環境学科卒業制作展が開催された。今回は新たな試みとして、短期大学部生活文化学科からも優秀な作品を選んで展示した。作品は、在学期間中に培った知識の集大成を具象化したものである。それらの作品は、在学生やこれから進学を希望する生徒に良い刺激を与えているようである。

平成十一年五月十日から二二日まで、NHK大河ドラマ「元禄繚乱の世界」展を開催した。NHKサービスセンター後援のもと、美術スタッフの方々の全面的な協力により実現した展示である。実際にドラマで使用した台本、道具帳、大道具、小道具、衣裳等を展示し、そのドラマに最も相応しい美術的空間を、スタッフの方々がどのように作り上げるのかという、普通では見ることの出来ないドラマの内側の世界を展示し、多くの学内外の方から反響があった。また六月十四日から七月十七日まで、本学生生活環境学科非常勤講師をされている穂積和夫先生の、古典建造物を中心としたイラストレーション原画展を開催。十月十八日から十二月四日まで、世田谷区教育委員会との共催で、「世田谷むかしむかし」展（仮称）を開催予定である。

〈今後の展示予定〉

○穂積和夫イラストレーション原画展

平成11年6月14日（月）～7月17日（土）

○「世田谷むかしむかし」展（仮称）

平成11年10月18日（月）～12月4日（土）（予定）

○生活環境学科・生活文化学科卒業制作展

平成12年2月中旬～3月上旬

※いずれも日曜・休日は休館

（光葉博物館学芸員小高恭子記）

文化史学会第二回大会報告

平成十年十二月十九日（土）午後二時より、昭和女子大学研究館七階視聴覚教室において、当学会の第二回大会が開催された。プログラムは次の通りであった。

開会挨拶 櫻井清彦

研究発表 大谷津早苗（昭和女子大学講師）

「人形芝居のかしら操法の史的位相について」

佐久間弘展（昭和女子大学助教授）

「ドイツ同職組合制度の特質」

調査報告 田畑 久夫（昭和女子大学教授）

「西南中国の少数民族」

展示解説 後藤 淑（昭和女子大学教授）

「岩元コレクション 世界の民族仮面展」

（光葉博物館展示会場にて）

懇親会 研究館五階ロビーにて